

## 『心は内に燃えて』(ルカの福音書 24 章 13-35 節) 2022.4.24.

<はじめに> 「神はどこにいるのか」と、神を信じる者を揺さぶる声の外にも内にも投げ掛けられることがあります。その時、私たちは何と答えるでしょう。主イエスを十字架で失った弟子も、似たような疑問と不安にさらされていました。

### I 近づき、ともに歩むイエス(13-16)

#### ① エマオへの道(13)

エルサレムからエマオまでは約 11 km です。徒歩なら何時間くらいかかるでしょうか。エマオに向かう二人もイエスの弟子で、この 1 週間余り、イエスにつき従ってエルサレムにいました。二人がエマオに向かった目的・意図は、どんなことが考えられますか。

#### ② 話し論じ合う二人(14-15)

その道すがら、彼らが話し合っていた「これらの出来事すべて」とは、具体的にどんなことですか。論じ合うのは、納得や結論に至っていないからです。彼らの中では、その話題について、まだ不可解なこと、混乱と困惑が入り交じっていました。

#### ③ イエス自ら近づいて(15-16)

そんな二人にイエスは自ら近づき、ともに歩いて行かれ、彼らの会話に耳を傾けられます。二人はイエスを知っていたはずですが、ここでは気づいていません。分からない者、気づかない者のそばにも、イエスは静かに近づき、ともに歩み、その声を聴いておられます。

### II 尋ねるイエス(17-24)

#### ① 何のことですか(17-21)

二人にイエスから声を掛けて尋ねると、彼らはナザレ人イエスのことを語り出します。二人は、イエスが力ある預言者でイスラエルを解放する方と期待していましたが、祭司長・議員たちは十字架で死刑にします。彼らのイエスへの期待と望みは打ち砕かれました。

#### ② 驚かされたこと(21-24)

墓にイエスのからだが見当たらず、御使いはイエスが生きておられると告げた、と今朝聞いた報告に、彼らはさらに当惑していました。立て続けに起こる出来事を消化しきれない彼らでしたが、話すことで物事を整理できてきます。

#### ③ あえて尋ねる

尋ねるイエスは、二人から何を聞いたかったのでしょうか。正解よりも、彼らの率直な思いと正直な今の受け取りを聞きたいのです。私たちの素直な思いと考え、心のうちのすべてを聞きたくて、すべてをご存じなのに、あえて尋ねてくださる主に会ったことがありますか。

### III 解き明かすイエス(25-35)

#### ① すべてを信じられない(25-26)

人が何かを「信じられない」と言うとき、何を信じているでしょう。キリストの受難と復活は預言者たちの最大のテーマで、イエスも予告されていました。神のことばは「必ず」実現します(マタイ 5:18)。しかし彼らはその一部を信じつつも、すべてを信じるには愚鈍でした。

#### ② 聖書を解き明かして(27、32)

イエスは聖書全体からご自分について書いてあることを一つ一つ取り上げて語られます。秩序を重んじる神は、予め語り、予告で繰り返し示されていて、私たちがそれを信じ受け取り、神が真実で正しい方だと頷く時、心は熱く燃やされます。そんな経験がありますか。

#### ③ イエスだと分かる時(28-35)

イエスがパンを取り、裂いて渡されたとき、彼らの目は開かれてイエスだと分かりましたが、すぐに見えなくなりました。しかし、彼らはもはや以前の不可解と混乱に戻っていません。見えなくても確かに生きておられるイエスを聖書のことばと信仰でとらえていたからです。

<おわりに> イエスは、ご自身を現すことで復活したことを弟子たちに示されるとともに、それが聖書のとおりであることを解き明かし、それを信じることへと導かれます。私たちが聖書を通して復活の主イエス・キリストにお会いでき、心燃やされて主に仕え続けることができます。(H.M.)